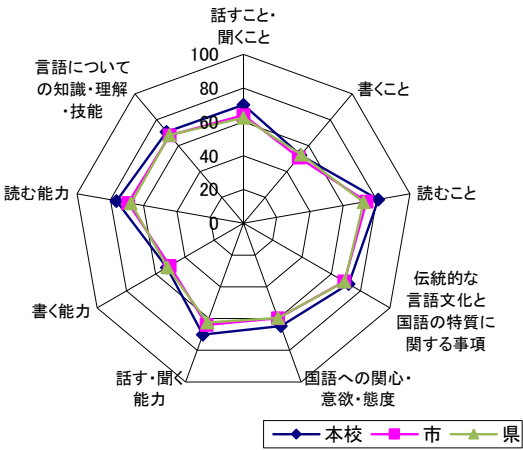


宇都宮市立今泉小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	70.1	64.0	62.5
	書くこと	52.5	50.9	53.1
	読むこと	81.0	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.9	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	64.8	59.9	59.7
	話す・聞く能力	70.1	64.0	62.5
	書く能力	52.4	50.4	52.0
	読む能力	76.3	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	70.7	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

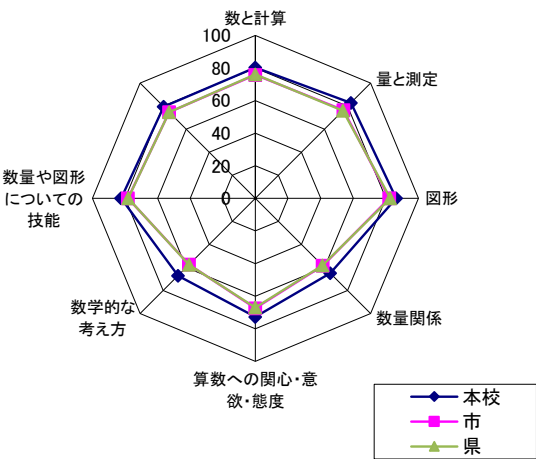
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を6.1ポイント、県の平均を7.6ポイント上回っている。 ○「話し方の工夫に注意して聞き取ること」については、市の平均を14.2ポイント、県の平均を17.3ポイント上回っている。 ●「聞きたいことをもとにインタビューの質問を考えること」については、正答率が県と市の平均を上回っているものの、個人差が見られる。	・日頃の学習にペア学習やグループ学習を積極的に取り入れながら、話し合いでの役割を明確にした上で、自分の意見を述べる機会を増やしていく。 ・大切なことを落とさず聞くために、話を聞く時のポイントや話し方など、気を付けるべきことについて繰り返し指導を行っていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均を1.6ポイント上回っているが県平均を0.6ポイント下回っている。 ○書くこととすることの中心を明確にして文章を書くことができた児童の割合は、県や市よりも高い。 ●文章を2段落構成で書くことにおいて、正答率が県や市の平均を下回った。また、規定の文字数まで文章を書くことができる児童の割合は県の平均より低い。	・学習の中で、自分の考えをノートに書く活動を多く取り入れ、書くことに対して慣れていけるようにする。 ・個人やグループによる新聞づくりや、行事に関する感想文など、目的や条件に合わせた文章を書く機会を増やし、文章の構成・段落に注意して文章を書けるような指導をしていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均を7.3ポイント、県の平均を8.8ポイント上回っている。 ○登場人物の気持ちを読み取ることや、目的や必要に応じて、場面の様子と登場人物の気持ちを読み取るという設問の正答率は、県や市の平均より10ポイント以上高い。 ●説明文の「文章の内容を的確に読み取る」や「段落の役割を理解する」の設問では、正答率が県や市の平均を超えているものの、個人差が見られる。	・読書をする際に、好きなジャンルのものだけでなく、様々な本に親しむことができるよう、声掛けをしていく。その中でも、ブックトークなどを利用し、説明文を読むことに興味を持ち、まとまりや段落を意識し、それぞれの段落の内容をとらえ、段落同士がどのように結びついているのかを考えながら読めるような場を増やしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市の平均を3ポイント、県の平均より2.8ポイント高い。 ○第3学年配当漢字の「読むこと」「書くこと」は、全ての問題において、県の正答率を上回っている。 ●文の構成(主語と述語)について、正しい組み合わせを選択するという設問の正答率は38.2%で、県の平均より10ポイント以上下回っている。ローマ字のつづり方に関する設問の正答率においても44.1%で、県や市の平均より下回った。	・文の構成(主語や述語)や、ローマ字の書き方について、他教科との関連を図りながら、積極的に授業の中に取り入れ、意図的に復習をしていくことができるよう工夫する。またその定着化を図る。 ・既習漢字は、今後も家庭学習等に継続して取り組むよう支援していく。

宇都宮市立今泉小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	80.3	75.8	76.1
	量と測定	82.8	76.5	76.0
	図形	86.3	82.1	82.7
	数量関係	64.9	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	72.7	67.4	67.0
	数学的な考え方	67.1	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	82.4	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	79.7	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

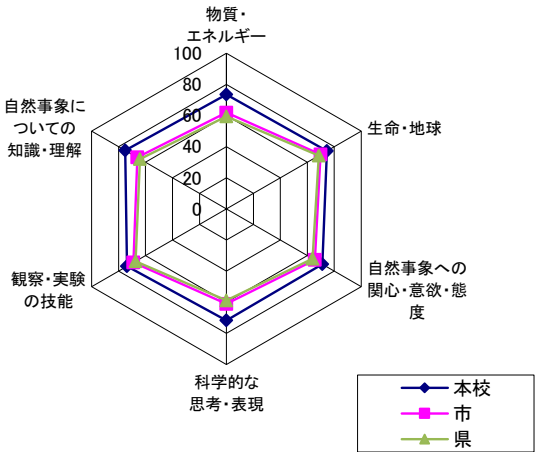
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を4.5ポイント、県の平均を4.2ポイント上回っている。 ○基本的な四則計算については、全て県の平均より上回っているため十分に身につけていると考えられる。 ○除法の余りのある学習において、具体物等を用い、工夫して指導をした成果であると考えられる。 ●桁が異なる計算や何度も繰り上がりのある加法において課題が見られる。	・今後も日常生活と関連した教材の設定を工夫して、算数で学んだ知識や技能を日常生活や他の教科の学習の中で用いようとする態度や目的に応じて用いることができる力を育てていく。 ・既習内容はほぼ身につけていると考えられるが、繰り上がりのある足し算や桁が異なる計算の定着が十分でない児童がいるので、今後も繰り返し復習させ、定着を図っていく。
量と測定	平均正答率は、市の平均を6.3ポイント、県の平均を6.8ポイント上回っている。 ○時刻と時間や長さ(道のり)に関する問題の意図をよく理解し、正しく求めることができている。 ●身近にある具体物の重さの単位を問う問題に課題が見られる。	・日常生活の具体的場面における量感と、学習で習い覚える知識が結びつくような、知識を生活に生かすことができる場を、算数に限らず様々な学習場面において設けていく。
図形	平均正答率は、市の平均を4.2ポイント、県の平均を3.6ポイント上回っている。 ○円と球の直径と半径の関係性が理解できている。 ●「与えられた1辺の続きを書いて正三角形を完成させる」の設問では、正答率が県や市を上回っているものの、個人差が見られる。	・具体物が準備できるものは、実際に使用して視覚的にもとめられるようにする。 ・4年生で学習する垂直や平行の指導の際、正三角形の定義を振り返ったり、作図したりして、学習内容を確認し習熟を図っていく。
数量関係	平均正答率は、市の平均を6.5ポイント、県の平均を6.7ポイント上回っている。 ○「□を使った式」の問題では、文章題や図の構造をとらえたり、□を使った式を正しく立式することができる。 ●棒グラフの目盛りの大きさと最も大きい値に着目して、棒グラフをかくことができない理由を説明するのに課題が見られる。	・算数だけでなく、社会科や理科等で表やグラフを読み取る学習を取り入れていく。また、その際、読み取るための観点を整理し、考えたことを伝え合うことで、多面的な考え方を知る機会を設定していく。

宇都宮市立今泉小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	73.5	61.9	59.4
	生命・地球	74.5	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	71.1	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	71.7	61.0	58.8
	観察・実験の技能	73.8	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	75.1	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均を11.6ポイント、県の平均を14.1ポイント上回っている。 ○「光のせいしつ」「風やゴムのはたらき」「じしゃくのせいしつ」「物の重さ」「電気の通り道」など、すべての設問の正答率が、県や市の平均より高い。特に、「電気の通り道」について、導線を正しくつなぐことや回路についての設問の正答率は、県の平均より20ポイント以上高い。 ●「電気の通り道」と「物の重さ」の内容の設問では、無回答が約1割見られた。 ●選択式の設問に比べて、短答や記述式の設問の方が正答率が低い傾向が見られた。	・学習問題が定着していない部分に関して、今後、練習問題等を活用し、内容の定着を図るとともに、記述式の問題にも積極的に取り組んでいく。 ・実験の結果から考察したことを自分の言葉でまとめる活動を取り入れることで、さらに学習活動への理解を深めるようにする。
生命・地球	平均正答率は市の平均を4.7ポイント、県の平均を6ポイント上回っている。 ○「こん虫の育ち方」「太陽と地面のようす」に関して、どの設問においても、県や市の平均より高い。特に、「太陽とかげの動き」について、観察結果から誤った方位磁針の使い方を指摘するという設問、正しい言葉を組み合わせて観察結果をまとめるという設問の正答率が県や市の平均より12ポイント以上高かった。 ●「ダンゴムシを正しく観察することができる」の設問では、正答率が市の平均より8.4ポイント、県の平均より7.9ポイント下回っている。 ●「温度計を正しく読むことができる」の設問では、正答率が市の平均より8.2ポイント、県の平均より6.4ポイント下回っている。	・自然と触れ合う場面を増やし、植物や動物の飼育を推奨することで、身の回りの自然への興味・関心を高めていく。 ・観測や測定で使用する器具の使い方については、誰もが実際に使用する経験をするすることで、観察・実験の技能を高めるとともに、正しい知識を身につけることができるようにする。

宇都宮市立今泉小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」の質問では、肯定的回答率が県や市の平均を大きく上回っている。自分の誤答を把握し、改善していこうとする姿勢がうかがえる。

○「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」と回答した児童の割合は18.6%と、県や市の平均と比べて10ポイント以上下回った。今後においても、授業などでノートに自分の考えをまとめたり発表したりする機会を設けていくなど自分の思いを文章で書く活動を多く取り入れていく。

○テレビのニュース番組やインターネットのニュースの質問項目については、県や市とほとんど変わらず、80%近くが見ていると回答している。また、地域や社会で起こっている問題や出来事に、43%が「はい」と回答していて、県や市を7ポイント以上上回り、地域社会に関心が高いことが推測できる。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の質問に肯定的に回答した児童の割合は19.6%で市や県の平均を下回った。特に市の平均と比較すると10ポイント低く課題である。

●難しい問題に出会ったときに、やる気が出る児童の割合が県平均や市平均より8ポイントほど低い。根気強く問題に取り組むことが苦手な児童の割合が多い。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDなどを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームはのぞく)。」の設問では、2時間以上と答えた児童が57.8%であり、県や市の平均から8ポイント以上高い。ゲームの時間を合わせると、1日にかなり多くの時間を費やしていることが読み取れる。

●「ふだん(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、すいみんをとることが最も多いですか。」の設問では、睡眠時間が8時間以上取れていない児童が19.6%であった。家庭での過ごし方を振り返り、上手な時間の使い方を見つけられるよう支援していく。